ねりま小中一貫教育レポート

○●○　第　6　号　○●○

平成 24 年 9 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第６号では、小中一貫・連携教育研究グループの一つである「旭町小学校」と「豊渓中学校」の取組を紹介します。

【研究主題】　９年間の学びの連続性の追求
～　小中共通のテーマは「表現力の育成」　～

◆小中学校の教員が全員で表現力の育成に取り組む

旭町小と豊渓中では、どの教科でも取り組める「表現力の育成」をテーマとして、教員全員が小中一貫教育の研究に参加することを心掛けています。そして豊渓中では、研究期間中にすべての教科で研究授業を行うことになりました。

研究１年目は、数学、理科、英語で研究授業を行いました。２年目の今年は、体育（バレーボール）と技術（ペンスタンドの作成）で研究授業を行いました。この日は旭町小の先生方が出かけていき、中学の授業を参観したあと、体育と技術に分かれて研究協議を行いました。

体育では、バレーボールの授業のなかで、いかに表現力の育成を取り入れるか、について工夫をしました。パスやスパイクの練習をペアで行うなかで、相手のプレーのどこがよくて、どこが悪いか、どこを意識して改善したらいいか、相互に評価してアドバイスするよう先生が呼びかけます。授業の最後には、「技能チェックカード」を使って、友達同士で評価しあう時間を設けました。講師の東京都教職員研修センターの板澤先生からは、体育科から保健体育科への９年間を見通した指導についてや、言語活動の充実と保健体育についてのお話をいただきました。小学校のうちに、投げる力、コントロール力、キャッチする力があるといい、という指摘や、中学校の体育の指導方法が参考に

なったとの感想も聞かれました。

◆小学校から中学校へつながる「表現力」とは？

技術の授業は、生徒たちは個々にペンスタンドを仕上げる段階でした。最終的には作品が表現力になるが、日々の授業では、作りたい作品に近づけるためにどうしたいかを伝えることが表現力の育成につながる、との説明に対して、「小学校ではいろいろな教科で、こつこつと表現力を育てている。中学校の先生方が、時間のないなか、どういう教材で、どのように表現力を育てたいと考えているのか、その思いを理解したい」との声が聞かれました。中学校の先生からは「せっかく小学校で表現力をつけてきたのに、中学に入ったら劣ってきたと感じることがあったら教えてほしい」「小学校で育てている『表現力』とは何だろうか。どこをつなげようか、と話し合う必要がある」という意見が出され、本質的な議論となりました。

講師の和田先生からは、「例えばペンスタンドの図案も表現力である。自分の考えをどう表現させるか、考えることに無理のある子には、どっちがいい？　と選択させることで考えさせることができる。小学校の６年間のやり方と、中学校ではここが違うと具体的に説明することが大切」とのお話がありました。

小中一貫教育に取り組んで２年目、ようやく先生方が本音で話し合えるようになってきました。

◆ノート指導における連携

旭町小学校では、ノート指導に力を入れています。算数では、原則見開き２ページを１時間で使うこと、左側に①課題②計画や作戦③実行（問題を解く）を書き、右側には④友達のよい考え⑤まとめ・感想を書く、と６年間共通で指導しています。

夏休み期間を利用して、豊渓中と旭町小と合同で、ノート指導について話し合いを行いました。中学校の先生からは「今までノート指導について、考えたことはなかったが、小学校の先生たちとノート指導の研究をやって、いいなあと考えるようになった」「小学校でノート指導を積み重ねてもらっているのは、非常に有難い。中学では小学校のノート指導を十分に生かし、より発展的に学ばせ、論理的に思考、判断、表現できる力を身につけさせたい」という声が聞かれました。

異校種での取組を理解することで、教科連携も充実してきています。